

令和元年度 第11回「まちづくり会議」概要 笠間地区

日 時：令和元年8月24日（土） 10：00～11：30

場 所：笠間公民館

参加団体等：振興協議会、町内会長会、壮年会、笠間老健会、体育協会、子ども会
指導者会、社会福祉協議会、商工連盟、JA青年部笠間地区、公民館運審議会、
防犯協会、安全協会、自衛消防連合隊など

発言【1】

4年後の加賀笠間駅100周年記念イベントについて

【市】

本市では、JR西日本が実施する在来線の金沢総合車両所と新幹線の白山総合車両所の一般公開等を通して、鉄道と地域との協働による「鉄道のまち」の醸成に努めてまいりたいと考えています。ビジターセンターの設置時期は決まっていますが、加賀笠間駅100周年のイベント等を地元やJRで企画されましたらPR面で協力したいと考えています。

なお、西松任駅の新設については、白山市地域公共交通網形成計画に位置付けられ、現在、概略設計を実施し、国・県（IR）・JR西日本と協議し、令和4年度末の開業に向け事業を進めています。

発言【2】

加賀笠間駅駐車場の整備について

【市】

加賀笠間駅の自由通路と駐車場整備については、ビジターセンターと連携して進めることとしており、交通結節点として駅の利用環境改善のため、地域のニーズや利用実態を踏まえ検討していきます。

また、駅からビジターセンターまでの動線についても、自民党プロジェクトチーム（PT）に対し提案しており、今後、地域のニーズに応じて二次交通についても検討を進めることとしています。

発言【3】

津波等災害による避難について

【市】

現在は、津波の浸水想定は海岸までで、高速道路を超えてくることはない想定

されているため、直接人家に影響はないと考えています。しかしながら、想定外のことも起こり得ますので、津波に備えての避難訓練の実施は重要と考えています。

毎年、他の町内では避難訓練を行っていますので、そういったことを参考に、海岸線では年に一回あるいは2年に一回程度、実施していただければと思っています。避難訓練の際には、各町内会長さんに要支援者のリストをお渡ししてありますので、要支援者の人を避難する訓練も併せて行っていただければと思っています。

地域が主体となり防災訓練を実施すると、コミュニティの連携に役立つということを、他の町内の防災訓練を見て感じます。市も遅ればせながら、8月24日に市社会福祉協議会が主催で、災害ボランティアセンターの開設・運用訓練を実施し、その中で、ボランティアの振り分けやニーズ調査などの訓練も行いました。来年以降も実施を予定しています。

発言【4】

①交通安全推進隊について

②土地を地域に寄付した際の減免制度について

【市】

①交通安全推進隊については、白山市では約130名の隊員が市内を13のブロックに分け、活動を行っています。最近では、隊員の高齢化、なり手不足という問題がありますが、朝の小学生の登校時間での横断歩道での誘導や、夜間の赤ランプピカピカ作戦などの啓発活動のほか、市のウルトラマラソンや地区のお祭りなどの行事などで交通誘導にあたっています。

その中の一つに、県の事業で「グットマナーキャンペーン」があり、白山市では「あいさつday」として8月30日に防犯協会、交通安全推進隊等また、民生委員、公民館等の関係機関と一緒に実施しており、今後、見守り隊の方にも参加していただけるように案内させていただき、連携を図っていきたいと考えています。

今後も地区においては、交通安全推進のために、推進隊や交通安全協会を中心として、地区の状況に応じて独自の活動をしていただきたいと思います。

②土地につきましては、市税条例及び市税減免要綱に則り減免しており、更なる拡大適用は考えていません。

国では、土地を相続したくない人が増えているのを受けて、土地の所有権を放棄できるようにする法制度の検討を進めています。しかしながら、放棄された土地は、国などが管理するため国民も負担を伴います。現在は、国土審議会において土地の所有者が放棄する前に、隣近所や地域と利用法を考える仕組みを検討しているところ

るです。

発言【5】

自主的サロンの立ち上げについて

【市】

市では、町内会に、地域ふれあいサロンや介護予防体操に取り組む市民主体の通いの場の設置を進めており、継続的に活動に取り組めるよう介護予防サポーターと共に支援をしています。

※笠間地区ふれあいサロン

①いきいきサロン笠間 H30 5回開催

②シルバーサロン弓掘 H30 11回開催

交通安全や福祉等の問題などに対して、老人会、女性の会、婦人会などが連携し機能できるように見直していくことが、身近にサロンができることに繋がると考えます。そのためには、社会福祉協議会の皆さん方のご協力が必要ですので、よろしくお願いいたします。

発言【6】

都市計画マスタープランについて

【市】

市街化区域に変更する際には、進出を希望する企業の需要もさることながら、工業用地の拡大の必要性について、各種統計調査の推計を踏まえた産業の見通しをもって、国や県などの関係機関に説明する必要があります。また、都市計画区域の変更に伴い可能となる場合もありますが、農業振興地域内における転用は基本的には難しいと思っています。

しかしながら、白山市の現状を考えてみますと人口も増加しており、工業団地も完売いたしました。白山市への企業の進出要望もありますので工業団地化、土地区画整理事業の準備を進めるために、市内の工業団地の計画的な拡大についての検討を進めてまいります。

発言【7】

①壮年会への女性の参加について

②他の市町村のSDGsの取組みと今後のPR（白山市独自のバッジ）について

【市】

①女性から男性中心の団体に入っていくことはハードルが大変高いという声が聞かれます。笠間の他、一木や柏野壮年会でも女性会員がいますが、男性会員とご夫婦で参加しています。まずは、壮年会の活動の中に、女性も多く参加しやすい活動を取り入れることや、現在の壮年会員の家族や友人など、身近な方に参加して頂く方向で活動をしてみてはいかがでしょうか。

また、壮年会と女性の会など活動内容が異なる団体が、互いの活動を把握できる交流会等を開催し、その中で共に活動できるものがあれば一緒に取り組み、連携に繋げていくことも、有効ではないかと考えます。

②SDGsについては、多くの自治体の手探り状態ではありますが、取り組みやすくなるような普及啓発方法について研究していきたいと考えています。

また、SDGsのPRについては、最近国連のバッジを付けた政治家や企業家をテレビ等で見かける機会が多いことから、国連のバッジの認知度が上がっていると思われます。まずは、チラシやポスターなどに国連のバッジのデザインのもととなるロゴマークデザインや17の目標のアイコンを活用して普及啓発に努めてまいりたいと考えています。

発言【8】

ウルトラマラソンのPRと参加について

【市】

ウルトラマラソンについては、市民に対する大会PRとして、町会連合会理事会、市内工業団地の連絡会議などを通しての周知や沿道での声援をお願いしており、広報、ホームページ、町内会の回覧板、ポスター掲示、松任駅デジタルサイネージなどでも周知をしています。

最初の頃は、周知、浸透を図るため短い距離の種目を設けていましたが、ウルトラマラソンはフルマラソン（42.195km）以上のニーズに応えるための大会のため、現在は100kmのコースのみとしています。また、白山白川郷ウルトラマラソンのコースは、スタートとゴールが離れており、かつ片道コースという性質上、途中のゴールを設けるのは運営面から実施が困難となっています。

大会を盛り上げるために、これまでも参加したボランティアの方々や各種団体からのアフターチェック及び参加ランナーからのアンケートにより、次回大会への反省点やご意見を集約し、その結果を踏まえ、来年度の大会内容を検討することとしており、市民向けには、フルマラソン以上の距離で開催できないかを検討したいと考えています。

発言【9】

笠間公民館の修繕、建設について

【市】

笠間公民館については、今後も雨漏りの現状を確認しながら、必要に応じた修繕を考えています。

新公民館の建設につきましては、軽体育館と併設する廊下を設置することで、消防法の要件が変わってきますので、設置の可否や土地の利用も併せて、地域の皆さんと相談しながら進めていきたいと考えています。